



2026 年 8 月 17 日

地方×大都市・日韓トップ理工系の交流 — 宮崎大学とソウル科学技術大学校が次世代エンジニア育成を目指す —

この度、ソウル科学技術大学校（韓国・ソウル市）から 8 名（学生 7 名、研究者 1 名）を招聘して、5 日間（2026 年 8 月 19 日～8 月 23 日）の研修プログラムを実施することとなりましたのでお知らせします。

これは、日本科学技術振興機構（JST）が行う国際青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプログラム」に採択されたことを受けて実施するもので、昨年に引き続き 2 年連続での採択となります。今回のプログラムでは、参加学生は日韓混成チームでロボットシステムの開発・実演・成果発表に取り組むほか、研究施設での体験学習や宮崎県内の自然・文化体験を通じて交流を深めます。本プログラムを通じて、国際的な視野を持つ理工系人材の育成と、日韓の学生間の相互理解の促進を目指します。

特に、①工学×農学×先端科学を体験し、AI・IoT 応用からフィールドサイエンスまでの異分野融合型の研修となっていることと、②小規模地方都市と大都市圏大学の協働により、多様な社会課題を体感できる研修となっていることなどが特徴です。

今回の国境を越えた連携により、イノベーション人材の育成を行うとともに、草の根レベルでの交流をこれまで以上に活発化させていきたいと考えておりますので、取材についてご検討いただければ幸いです。

▼取材可能な日程とプログラム内容

2026 年 8 月 21 日（金）10:30～12:00：「ボッチャ」で使うボール回収ロボットデモンストレーション

近年、障がい者スポーツがますます盛んになり、多くの人がさまざまな競技を楽しんでいます。一方、球技では、競技後や練習中に散らばったボールを回収する作業が、介護者や介助者の身体的な負担となる場合があります。何度も腰を曲げたり、広い範囲を移動したりしながらボールを拾う必要があり、腰や膝への負担につながります。また、プレイヤー自身が周囲への負担を気にすることで、競技を十分に楽しめない場合もあります。しかし、こうした障がい者スポーツの現場を支援するロボットや機器は、いまだ十分に普及していません。

そこで、宮崎大学の学生たちと韓国の学生たちは、障がい者スポーツの一つである「ボッチャ」に着目し、本年 4 月からボール回収ロボットの開発に取り組んできました。今回のさくらサイエンスプログラムでは、カメラから取得したボールの位置情報をもとに、散らばった複数のボールを効率よく回収するための経路生成アルゴリズムを日韓の学生が共同で開発します。さらに、開発したアルゴリズムを実際のボール回収ロボットに搭載し、ボッチャボールの回収デモンストレーションおよび性能検証を行います。

2026 年 8 月 21 日（金）13:00～14:30：研究室訪問・施設見学・意見交換

韓国の学生が宮崎大学の研究室を訪問し、日本人学生の案内のもと、研究内容や研究設備などを見学します。研究室見学を通じて、日韓の学生が互いの研究活動について理解を深め、意見交換を行うなど、学生同士が交流する様子をご紹介します。

お問い合わせ先 工学部工学科機械知能プログラム 教授（李） メール： geunho@miyazaki-u.ac.jp TEL:0985-58-7421	発信元 企画総務部総務広報課 メール： kouhou@miyazaki-u.ac.jp TEL:0985-58-7114
---	--